

公 示

救主降生2021年11月4日  
日本聖公会 東京教区主教  
主教 フランシスコ・ザビエル 高橋宏幸

神のお許しがあれば、聖職按手式を下記のように執り行い  
聖職候補生 ヒルダ 藤田 美土里  
を公会の執事に叙任いたします。  
主にある諸教会のみなさまのご加禱をお願いいたします。

記

日 時 救主降生2021年12月18日  
(冬期聖職按手節土曜日) 午後2時  
式 場 日本聖公会東京教区  
聖マーガレット教会  
東京都杉並区松庵1-12-29  
司 式 主教 フランシスコ・ザビエル 高橋 宏幸  
説 教 司祭 ロイス 上田 亜樹子  
式 典 長 司祭 ヨハネ 塚田 重太郎  
※祭色は赤を用います。

以 上

\*参列者を限定して行います

者のため

st.margaretstokyo@gmail.

11月23日

門馬

信子(82)

東京諸聖徒

◇11月の代禱・信施奉献先  
▽済州(チェジュ)教会・西  
帰浦(ソギポ)教会の働きの  
ため▽障害者週間のため▽  
アジア学院の働きのため▽人  
権活動を支える主日(28日)  
◇12月の代禱・信施奉献先  
▽世界エイズデー▽野宿生  
活者支援のため(Ⅱ)▽エル  
サレム教区の難民支援活動  
のため▽日本聖書協会の働  
きのため▽難民・移住労働

者のため  
◇藤田美土里聖職候補生執事  
按手式出席申し込みについて  
新型コロナウイルス感染症対策のため、12月18日(土)14時より聖マーガレット教会聖堂にて執り行われる藤田美土里聖職候補生執事按手式への出席は、事前申し込みが必要です。件名を「藤田美土里聖職候補生執事按手式出席希望」とし、本文に名前と電話番号を記入の上、

11月21日 上野 有友(89)  
聖パウロ  
◆とこしえの平安  
11月23日 門馬 信子(82)

候補充生執事按手式への出席は、事前申し込みが必要です。件名を「藤田美土里聖職候補生執事按手式への出席は、事前申し込みが必要です。件名を「藤田美土里聖職候補生執事按手式出席希望」とし、本文に名前と電話番号を記入の上、

今週・来週の予定	
11月28日～12月11日	
28 (日)	降臨節第1主日 城南G教会協議会 環状G教会協議会 外濠G教会協議会 女性に対する暴力の根絶を求めて 祈る(動画配信)
12月	
3 (金)	教区事務所 職員・主事会議 東京教区青年会
5 (日)	降臨節第2主日
8 (水)	教区青年会
10 (金)	資料保全委員会 聖職養成委員会(web)
11 (土)	東日本大震災、また世界各地の自然災害を憶えて祈る 財政委員会(web)

◇東京教区 第139 (定期)  
教区会 開会演説

2021年11月23日

1 ―はじめに―  
9月末をもちまして「緊急事態宣言」が解除はされました。本来でしたら一堂に会して対面での会議が望ましくありますが、開催に伴う状況等を鑑みまして、この度も前回同様の形式を選択致しました。各会場教会にご参集戴き、感謝申し上げます。ご不便な点もあろうかと思いますが、皆さまのご理解とご協力を切にお願ひ申し上げます。

また、このために尽力して

2 ―いのちを支え合い、仕え合い、尊び合う―

「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上进行き物をすべて支配せよ」(創世記1:27-28)

この創世記の言葉を、「全ての被造物を人間の意のままに」と捉えられることがありますが決してそうではなく、全ての被造物の創り主なる神様の協力者となることへの神様の願ひであり、委託でもありません。しかし

活動計画、予算が主たる議案となりませんが、その他にも重要な議案が出されておりますので審議をよろしくお願ひ申し上げます。

2 ―いのちを支え合い、仕え合い、尊び合う―

「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地上の進行き物をすべて支配せよ」(創世記1:27-28)

この創世記の言葉を、「全ての被造物を人間の意のままに」と捉えられることがありますが決してそうではなく、全ての被造物の創り主なる神様の協力者となることへの神様の願ひであり、委託でもありません。しかし

活動計画、予算が主たる議案となりませんが、その他にも重要な議案が出されておりますので審議をよろしくお願ひ申し上げます。

2 ―いのちを支え合い、仕え合い、尊び合う―

「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地上の進行き物をすべて支配せよ」(創世記1:27-28)

ながら、被造物はいのちを深く心に留め、教会の働き秘めた、神様の掛け替えのない作品であるにもかかわらず、私たち人間は長い歴史の中で豊かで便利な生活を進歩とみなし、追求してきました。その結果、人間

「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地上の進行き物をすべて支配せよ」(創世記1:27-28)

この創世記の言葉を、「全ての被造物を人間の意のままに」と捉えられることがありますが決してそうではなく、全ての被造物の創り主なる神様の協力者となることへの神様の願ひであり、委託でもありません。しかし

活動計画、予算が主たる議案となりませんが、その他にも重要な議案が出されておりますので審議をよろしくお願ひ申し上げます。

2 ―いのちを支え合い、仕え合い、尊び合う―

「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地上の進行き物をすべて支配せよ」(創世記1:27-28)

この創世記の言葉を、「全ての被造物を人間の意のままに」と捉えられることがありますが決してそうではなく、全ての被造物の創り主なる神様の協力者となることへの神様の願ひであり、委託でもありません。しかし

活動計画、予算が主たる議案となりませんが、その他にも重要な議案が出されておりますので審議をよろしくお願ひ申し上げます。

2 ―いのちを支え合い、仕え合い、尊び合う―

「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地上の進行き物をすべて支配せよ」(創世記1:27-28)

この創世記の言葉を、「全ての被造物を人間の意のままに」と捉えられることがありますが決してそうではなく、全ての被造物の創り主なる神様の協力者となることへの神様の願ひであり、委託でもありません。しかし

活動計画、予算が主たる議案となりませんが、その他にも重要な議案が出されておりますので審議をよろしくお願ひ申し上げます。

2 ―いのちを支え合い、仕え合い、尊び合う―

「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地上の進行き物をすべて支配せよ」(創世記1:27-28)

でも、このことをテーマとした礼拝を捧げ、取り組みをより一層進めるべく、宣教主事を窓口にも外部団体とも話し合いを始めています。今後も各教会へのご案内や働きかけがなされることになっています。共にこの重要課題に取り組んで参りましょう。その一つとして「パワーシフトキャンペーン」がありますが、これは「電力会社変更キャンペーン」ではなしに、自然環境を考えるきっかけとしてのものです。その他、貧困や食の問題を取り上げた講演会なども行われ始めています。これらは、「いのち」とどう向き合い、支え合うかというキリスト教信仰の要、霊性の要に繋がるものです。今後私たちの信仰、霊性を育む上でも大切に続けてまいります。

ねばならない「ハラスメント」問題があります。ハラスメントは、いのちや人権を守ることに反対に向かうものです。先年アメリカで人種差別による殺傷事件が繰り返され、多くの人の心に深い痛みを与えました。「国籍・学歴・ジェンダー・人種等の差別」という、命を否定したり、傷つけたりすることの克服を「目指す教育」の大切さは勿論ですが、私たちの意識改革の必要も度外視できません。殊に、ハラスメントや人権侵害という人を傷つけるものを信仰の問題として捉え、起こってしまつた出来事に向き合いながら、その防止に尽力すべく「NO！ハラスメント」に向けて学びを継続してまいります。現在、管区で「Safe Church」の日本語訳作業が行われています。その発行にあたっては学びをしてまいります。発行以前にもハラスメント防止、あるいはなくするための規定の必要性を感じております。そこで、起こさなための努力、迅速な対応のための、ことに私たち聖職に向けての啓発、教育の継続に努めます。併せまして、種々の規定の整備、必要性は急務のものと考え、検討を始めてまいります。

また、「教育に関わることの検討チーム」では話し合いを重ねていただいています。それは、一方的に何かを伝え教える「教育」に止まるのではなく、「主イエスに倣い、従い、献げる宣教共同体に成長していくことを目指すため」「キリスト者としての恵みに与っていることを自らのもの、賜物とし、他者のために活かしていくこと」を目指す力を養うためのものです。その中には数々のテーマがありますが、世に遣わされ社会

に福音を伝える器として必要な「教育（共育）」を、信仰者としての在りよう、行動につながるものとして参りたく願っておりますとともに、今後の分ち合いも願っております。このことに繋がる一つの具体的な動きとしまして、先般、全教役者の執筆ご協力の下に「み言葉と歩む大斎節」を作り、多くの方がたに広く活用されましたことは大きな喜び、また感謝です。今回は、降臨節から顕現日にかけて北関東教区教役者と合同でのものが作られました。黙想の手引きとして活用されますようお願い致します。

3 | 新たな動き・働き |

現在、「教区の諸々の宣教プログラム見直し、再整備」を教区会で定められてた教区施行規則を基に始めております。コロナウイルス感染症はまだまだ楽観はできません

が、感染症中のさまざまな事柄を経て教区は再生していかねければなりません。また、地域との関連で見えてくる宣教課題、各地域の生活の視座から見えてくる宣教課題があるはずですし、教会が地域とどう接点を作っていくかが各々の宣教ビジョンを見出すことにもなります。

今日6日にはインマヌエル新生教会聖堂聖別式が行われ、新たな一步を踏み出しました。「各個教会」という言葉がありますが、これらの出来事は個々の教会内の出来事としてではなく教区内の出来事として、そこに至るまでの祈りや困難、痛みをも共にしつつ、培われ、養われてきた信仰、霊性が結集され、受け継がれ、新たな歩みへと昇華され、また新たな共通の経験として祝福されますように共に祈り合いたいと思います。

遡って10月30日には、池袋聖

いのちを尊ぶことに関わる中には、私たちが向き合



公会伝道所の聖別解除式が行われました。関東大震災後の1925年(大正14)、失意の内に在る池袋において希望の光となるべく、主として医療の伝道拠点として建てられた池袋聖公会ですが、その後戦争など幾多の困難を経ながらも信仰の光を灯してこられました。池袋聖公会、その後の池袋聖公会伝道所を通して今まで与えられた神の恵みと、今日までの働きに深い感謝を捧げます。

更に、東京諸聖徒教会では

学童保育、及び放課後等デイサービスの開設が計画されています。教会の周辺に住まう方がた(地域)の「ために」「ともに」「向かって」という教会の使命が一層形作られ、深められていくことを祈り続けたいと思います。D・ボンヘッファーが獄中から認めた書簡の中に記されています「教会は、他者のために存在

する時にのみ教会である」という言葉が更なる実り、形、働きとなつていきますよう祈ります。そして、「教会が地域とどう接点を作っていくか?」という宣教VISIONを熟考、検討し、実現へ向かっていく、即ち「パリッシュの在りようを再検討し、時には変えていくこと」が、キリスト信仰のキーワードである「Becoming」に通じることであり、「再編成||刷新・リバイバル」に繋がるものと思います。

小笠原聖ジョージ教会は、東京教区唯一の離島に在る教会です。そこに集い、祈る方がたのことを覚え、また、そこに在ることの恵み、重要性、そして働きの可能性には深いものがあることは疑い得ません。聖ジョージ教会は島の歴史そのものであり、自然はもちろなりソースは豊かで

す。それだけに、大切な宣教拠点として考えたいと思っております。長きに亘り小笠原愛作司祭様お一人に頼り切つてきましたが、今後東京教区における離島伝道という位置づけの再考、すなわち単に一教会という枠を超え、東京教区の大切なミッションとして検討してまいりますし、歴代の教区主教と教会の間で交わされてきました定住聖職派遣の可能性も視野に入れております。

また、若い世代の方がたに よる教区を超えての交流や学びも始まっています。大変嬉しく、心強いことでもあります。そのような自発的動きに祝福を絶えず祈りつつ、更なる動きを培っていかれることを望みますとともに、世代間の繋がりも信仰の継承に於いて大切な要素であることも心に留めたいと思います。

#### 4 | 教区を超えて |

日本聖公会第65(定期)総会(2020年10月27日~29日)にて大きな決議がなされたことは既にご存知の通りですが、それを受け、北海道、東北、北関東、東京の4教区で東日本宣教協働区が構成され、さらに2教区(北海道教区と東北教区・北関東教区と東京教区)による分科会が作られ、話し合いが重ねられてきました。ことに私たち東京教区と北関東教区では具体的な協働として宣教・組織・財政・広報の4部門を設け、信徒・教役者の方がたに関わっていただき活動していくことが計画されています。

3月25日付で両教区主教、常置委員会名で「共同宣言」が出され、前教区会で申しましたように東京・北関東教区間で協議を進めていくため、常置委員長間、常置委員会間、教役者間、分科会での話

合いが始まっています。そこでは「教区の新設に向けて互いに取り組んでいく」ことが確認され、これからの歩みとして両教区の課題や可能性を分かち合い話し、歴史等も含め互いを知り合い、信頼関係を作ることから始めることになりました。今後、様々な分野での人的交流の機会も増えることになると思います。但し、コロナウイルス感染症のダメージを大きく受けました中、十分に広報活動が行き渡ってきたとは言えませんが、今後細かな広報活動に努めてまいります。他教区に聴き、学び、協働していくことで豊かさが増し加わるものと思えます。同時に、そこには未知のことへの不安や困難、戸惑いも伴いもあります。戸惑いも伴いもありませんが、「神様の働きの器」として力が与えられることを祈り合いたいと思います。各々の伝統、歴史、歩みには当然異なる

るものもありますが、異なるもの同士が出会い、力や働きを共にする時、それまでは見えなかつたもの、聞き逃してきたものが見える、聞こえるということが生み出されます。後程議案審議となりますので、よろしくお願い申し上げます。

イエス様は、「だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはいしな。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、

新しい革袋に入れるものだ。」(マルコによる福音書2:22)と言われました。ともすると私たちは慣れ親しんできたものに愛着を持ち、それに固執しようともします。そのことの全てを否定するものではありませんが、その際、誤った意味や方向性で「私」が主語になる時、信仰や信仰に根

付いた働きが歪み始めたり、違った方向へ進み始めたりしかねないことは心に留めておきたいと思います。この落とし穴から救ってくれるものとして、ことにC・Mウイリアムズ主教の信仰の生涯を評した「道を伝えて、己を伝えず」、ライフスナイダー主教の「神と國(人びと)とのために」、そして何よりもイエス様の「仕えられるためではなく、仕えるために」を心に深く刻みたいと思います。

5 — 最後に —  
10月2日には、荻原充聖職候補生が執事に按手され、公会の執事としての働きを始められました。授かっている賜物が豊かに用いられますよう祈ります。また、現在、藤田

美土里聖職候補生が12月18日の執事按手を控え、高柳章江、中村真希、藤田誠各聖職候補生が執事試験に臨んでい

ます。更なる働き、学び、研鑽の内に聖霊の導きをお祈り致します。

また、コロナウイルス感染症により、予定よりはるかに長く2年に亘り聖オルバン教会でお働き下さいましたケイト・カリネイン司祭、また7年間東京教区で働かれ、この度英国聖公会に戻られたスティーブン・クロフツ司祭に深く感謝致しますとともに、今後のお働きの上に主の恩寵を祈ります。そして、新たに着任予定のマイケル・モイヤー司祭を歓迎し、そのお働きの上に祝福を祈ります。

現在、沖繩教区へ出向中の朴美賢司祭は、2025年3月まで出向を更に3年延長します。

一方、沖繩教区の西平妙子司祭が2022年4月より東京教区へ3年間の予定で出向されます。お二人の各々の場での聖務に導きを

改めて「いのちの宗教で  
あるキリスト教」、そして「いのちに仕え、守り合うためのつながり」を心に刻み付け、それに基づいた例え小さくても具体的な働き、動きを生み出すため共にお祈りください。

ご清聴、ありがとうございます。